

要旨：米国・中国・メキシコ間の貿易：付加価値貿易から検討する新しい三角関係

青山学院大学 地球社会共生学部 咲川 可央子

2018年から始まった米中貿易摩擦は、米中覇権争いへと発展し、第二次トランプ政権樹立後も両国の攻防は予断を許さない。大国となった中国は、ラテン・アメリカにおいてもその存在感を急速に増している。ラテン・アメリカと中国の関係は、貿易のみならず、融資、投資、インフラ、雇用創出など多方面において、質・量ともに緊密化している。米国は、歴史的に自国の「裏庭」とみなしてきたラテン・アメリカに対する中国の影響力が広がることを強く警戒している。Dussel (2025)は、ラテン・アメリカと中国の関係を理解するには、三角関係の一角として米国を含める必要があることを主張し、これを「新しい三角関係 (New Triangular Relationship)」と呼んでいる。

Dussel は、これまでもラテン・アメリカの中でメキシコを取り上げて、米中との三角関係に注目してきた。Dussel (2020)では、特に米国・中国・メキシコ間の貿易に注目して分析している。本稿は、Dussel の研究に準じて、米国・中国・メキシコ間の貿易面に焦点を置いて、今日の三角関係について検証する。

ただし、本研究は、以下の点で既存研究を一步進める新しい研究である。第一に、既存研究では貿易についての指標として通常の貿易統計を用いているが、本稿では貿易統計に加えて付加価値貿易統計を用いる。グローバル・バリュー・チェーン (GVC) が複雑になり、中間財が何度も国境を超える貿易が盛んになるにつれて、国際貿易を「取引額」で測ると「二重計上問題」が生じるようになった。そうした状況下、貿易についての相互依存関係を検証するためには、付加価値貿易統計を用いることが推奨される。第二に、本稿は近年の米中貿易摩擦の時期を含んで分析している。米国・中国・メキシコ間の貿易についての既存研究は、いずれも米中貿易摩擦以前を対象としており、米中貿易摩擦が長期化している今日とは貿易状況は異なるであろう。本稿は、貿易統計では2024年まで、付加価値貿易統計では2022年までを含み、米中貿易摩擦の影響を含んだ研究である。

結果として明らかとなったことのうち、以下のことが特記される。①中国とメキシコの相互依存関係は金額としては他の二国間と比べると小さいが、特に中国からメキシコへの付加価値輸出が2015年から2022年に顕著に増加した。②その傾向は、GVCが盛んな自動車産業、機械機器産業、繊維産業で確認された。③米国とメキシコ間の貿易は、通常の貿易統計を用いるよりも付加価値貿易統計を用いた方が小さかった。2024年の貿易統計では米国の輸入元としてメキシコが中国を上回っていたが、付加価値貿易統計の最新年である2022年を比較する限り、米国の付加価値輸入元として中国がメキシコを大きく上回っていた。これは、米国とメキシコの間で何度も国境を超える貿易が行われていること、メキシコが他国から中間財を輸入して加工・組立をして米国に輸出する後方連関型のGVC参加をしていることを反映していると共に、中国を含む他国からの迂回輸出が行われている可能性を示唆している。